

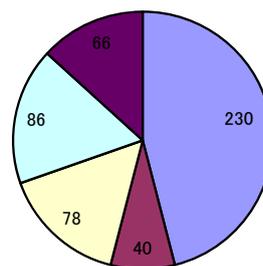
景気動向

業況は悪化。
先行きは製造業、非製造業共にわずかに改善の見通し。

- 調査時点 平成23年7月調査(23年6月末時点)
- 対象企業 769社
- 回答企業 500社(回答率:65.0%)
(製造業230社、建設業40社、卸売業78社、
小売業86社、サービス業66社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	230
建設業	40
卸売業	78
小売業	86
サービス業	66



- 製造業
- 建設業
- 卸売業
- 小売業
- サービス業

<全産業>

全産業の業況DI(▲34.6)は、前回(▲18.6)に比べてわずかに悪化を示した。
業種別では製造業の業況DI(▲27.8)は、前回(+3.3)に比べて31.1ポイント悪化した。
建設業の業況DI(▲22.5)は前回に比べて改善、小売業の業況DI(▲38.4)はわずかに改善を示したが、卸売業では悪化、サービス業ではわずかに悪化を示した。
各業種からは、震災や原発事故による業況悪化の声が多く聞かれる一方、一部では復興に関する特需があるとの声があった。
3か月先見通しは、製造業、非製造業共にわずかに改善を見通している。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
6月末時点	-34.6	-31.2	-36.4	-17.6
12月末時点	-18.6	-16.1	-29.4	-15.4
前回比	-16.0	-15.1	-7.0	-2.2

■全産業の業況

業況	6月末時点	12月末時点
良化	20.2	22.3
悪化	54.8	40.9
DI値	-34.6	-18.6
前回比	-16.0	5.5

■6月末時点からみた全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	14.0
悪化	41.0
DI値	-27.0

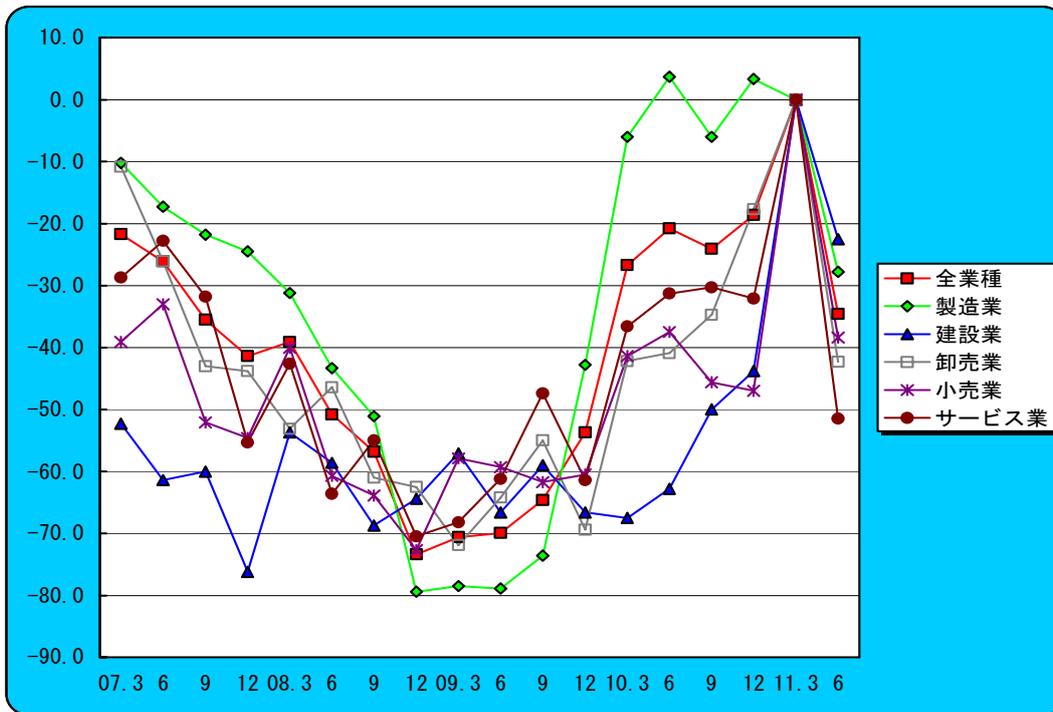
■製造業の業況

業況	6月末時点	12月末時点
良化	22.2	34.0
悪化	50.0	30.7
DI値	-27.8	3.3
前回比	-31.1	9.3

■非製造業の業況

業況	6月末時点	12月末時点
良化	18.5	12.9
悪化	58.9	49.2
DI値	-40.4	-36.3
前回比	-4.1	3.4

■業種別業況DI値推移グラフ



<製造業>

業況DI値	
今回	-27.8
先行き	-18.7
前回比	-31.1

対象企業	350
回答企業	230

業況・売上は悪化、採算・資金繰りはわずかに悪化を示した。

業種別にみると業況は「酒造」で大幅改善、「織物」「ニット」でわずかに改善、「鉄鋼・非鉄」「プラスチック」で横ばい、「窯業・土石」でわずかに悪化、「食料品」「木材・木製品」「一般機械」「輸送用機器」「精密機器」で悪化、「縫製」「印刷」「金属」「電気機器」で大幅悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りの全てでわずかに改善の見通しを示している。

業種別にみると「印刷」の業況は大幅改善、「食料品」「木材・木製品」「窯業・土石」「金属」「輸送用機器」「精密機器」は改善、「縫製」はわずかに改善、「ニット」「電気機器」は横ばいを見通している。一方で「織物」「一般機械」「プラスチック」の業況はわずかに悪化、「鉄鋼・非鉄」は悪化、「酒造」は大幅悪化を見通している。

「震災・津波により、被災し、廃業となりました」「30km圏内での乳製品工場の為、風評被害と人口の減少により経営が非常に厳しい」「福島県で製造していると言うだけで、売場(関東)から撤去され、放射能検査結果を持参して説明するも、未だ再開に至っていない」といった声の他に「東北、福島の復興支援イベント、消費者の購入動機がやや追い風となっている」「今は、仮設住宅建設の為フル稼働だが、先行きは見通せない」といった声があった。

自由意見

製造業

- 復興特需があり現在盛況ではあるが、観光客の激減で先行き予断許さず。 【食料品】
- 30km圏内での乳製品工場の為、風評被害と人口の減少により経営が非常に厳しい。 【食料品】
- 原発事故により、放射能検査を要求されることが多く、今後の取引継続に不安。 【食料品】
- 原材料・諸物価が上がるが製品には転嫁できず困る。今後風評被害が心配。 【食料品】
- 震災・津波により、被災し、廃業となりました。長い間お世話になりました。 【食料品】
- 福島県で製造していると言うだけで、売場(関東)から撤去され、放射能検査結果を持参して説明するも、未だ再開に至っていない。 【食料品】
- 原発事故の放射能問題で、取引を継続する先、停止する先に分かれている。停止先は、福島というだけでだめ。放射能が検出されていない分析報告書を付けてもだめ。 【食料品】
- 震災以降、県内は非常に厳しい状況が続いております 【酒造】
- 震災地域の応援フェアにより4月～6月は売上が増加しているが、長続きしないのではないかと不安である。原発事故の風評も気になる。 【酒造】
- 東北、福島の復興支援イベント、消費者の購入動機がやや追い風となっている。 【酒造】
- 震災以来の復興応援需要により、5月～6月の売上高は上昇し、業況に寄与しているが、秋口以降関心の落ち込みと以前からある日本酒ばなれの傾向が顕在化すると考えられる。そのため新商品の研究開発を推進し、新たな需要の開拓に全力をあげて対処。 【酒造】
- 震災により先行きに不透明感がある。特に原発事故の収束が見えないと対応できない。 【縫製】
- 東日本大震災の影響が業界内に大きく広がり、日本中不況の最中、被災地の不利を克服して頑張っています。 【縫製】
- 資金借入環境がかなり厳しくなると思われる。 【木材・木製品】

○原発30km圏内のお客様の避難により受注が減少し、売上の減少を招いた。	【木材・木製品】
○今は、仮設住宅建設の為フル稼働だが、先行きは見通せない。	【木材・木製品】
○原発事故による風評被害で、福島県産の木材は使用しているのか？会津桐を使用していて大丈夫か？など問い合わせがあり、商談がまとまらない事が多々ある。	【木材・木製品】
○東北地区に於いては、販売状況が良いが、中京地区以南は、動きが悪い。現地の職人さんが、応援で東北に来ている為らしい、との事。	【木材・木製品】
○原発事故の影響で、関東からの受注がまったくなくなりました。	【印刷】
○いわきは、原発処理、災害処理、避難に来た人達で、賑わっている。特に原発関連では、特需の様相。	【印刷】
○復興関連事業がいつからでてるのかによって状況が変わってくると思う。それによって金融機関も考えてくれるのではないか。設備の入替をしたいのだが、現状まだ金融機関の対応が渋い。	【窯業・土石】
○震災により、予定に大幅な狂いが生じている。	
○原発事故による影響が年末にかけての民間工事減少に繋がってくるのではないかと。震災による公共事業発注の遅れもあり工事が確保できるか心配。発注の仕方により工事が重なった場合、車両不足が心配される。	【窯業・土石】
○採算については3月度の損益を引きずっている。新規開拓のために、展示会等への出展を進めている。	【窯業・土石】
○震災のため2月末で生産を打ち切り、業務転換をはかる為、会社を整理する方向で検討しております。永い間お世話になりました。	【窯業・土石】
○震災による特需あり。	【窯業・土石】
○今年の1月より受注が半減した。さらに5月～6月は昨年2割～3割程度の仕事量で、従業員を毎日自宅待機させざるを得ない状況である。	【鉄鋼・非鉄】
○原発事故による夏季電力対策による受注減少が予想される(大口納入先)。	【鉄鋼・非鉄】
○原材料の値上げによる、資金繰りに影響大です。製造設備の改造補修部品の納期が1.5～2.0倍長くなっている。	【鉄鋼・非鉄】
○原発事故の収束見通しがつかず、大手客先への安心感がないため、在庫生産が続いている	【鉄鋼・非鉄】
○震災による被害はなかった為、一時的に手直し品等の受注が増えた。一方で原発避難区域の得意先が撤退意向を示した所もあり、先行きの動向が心配である。自動車関連企業は木金休業になり、関連企業にとっては、休日出勤になることによって人件費がかさむ場面もある。	【金属】
○原発事故による風評被害が、営業活動に支障をきたしている。	【金属】
○3.11以降、業種間で取引増と減の格差拡大が見られる。	【金属】
○電力問題。風評被害(原発に係る)。	【金属】
○震災、原発事故の影響を受けている。	【金属】
○今後の見通し不明です。	【一般機械】
○幸いにして、震災被害も軽微でその後の受注は順調です。しかし、先行き是不透明で分りません。	【一般機械】
○震災による業績動向の変化は県内地区により差があると思う。	【一般機械】
○原発事故による放射能問題及び電力不足の問題等で先行きが全く読めません。産業空洞化は避けて通れないものと推測せざるを得ません。	【電気機器】
○原子力事故(放射能)風評が心配。これから起るであろうリスク分散化が問題である。	【電気機器】
○自動車関連業の落込みがひどい。	【電気機器】
○震災及び風評被害も辛うじて受けないでいられるのはありがたいです。福島を復興する一翼を担うべく社業を盛り上げて行きたいと存じます。	【電気機器】
○被災復旧、省エネ対応、電力制限等、様々な対策が必要となってくると思うが、それらにどう対応するかが問題。	【輸送用機器】
○電力供給制限の中で、如何に効率よく生産していくかが当面の課題。海外拠点の拡充をスピードを持って進めていく。	【輸送用機器】
○受注減少のため、従業員の一時帰休を6月から実施中です。	【精密機器】
○震災前、リーマンショックからようやく脱出出来るのか、と思われたのが、今は一変して、先の見えない最悪の方向へ向かっている。	【精密機器】
○4月～6月まで支援事業の為、稼働日数は増加した。	【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-22.5
先行き	-2.5
前回比	21.3

対象企業	62
回答企業	40

業況・売上・採算・資金繰りの全てで改善を示した。
業種別にみると「土木」は売上で大幅改善、業況・採算・資金繰りは改善を示した。「建築」は採算で改善、業況・売上・資金繰りでわずかに改善を示した。
3か月先見通しの業況は改善、採算はわずかに改善、売上は横ばい、資金繰りではわずかに悪化を見通している。
業種別にみると「土木」は業況・採算で改善、資金繰り・売上でわずかに改善を見通している。「建築」は業況で横ばい、採算でわずかに悪化、売上・資金繰りで悪化を見通している。
「東日本大震災により、本来の工事が出来ず、ガレキの片付等だけでは業況は良くなるしない」「原発事故の収束状況がみえず、予測しがたい」といった声の他に、「震災復興に関する工事では、是非地元企業の活用をお願いしたい」といった声があった。

自由意見

建設業

○東日本大震災により、本来の工事が出来ず、ガレキの片付等だけでは業況は良くなるしない。	【土木】
○原発事故の収束状況がみえず、予測しがたい。	【土木】
○災害関連の業務が多く、採算がとれない。	【土木】
○震災復興に関する工事では、是非地元企業の活用をお願いしたい。	【建設】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-42.3
先行き	-41.1
前回比	-24.6

対象企業	108
回答企業	78

業況・売上・採算で悪化、資金繰りでわずかに悪化を示した。
業種別にみると、業況は「鮮魚」「機械器具」で横ばい、「衣服」「建築材料」でわずかに悪化、「青果物」で悪化、「飲食料」で大幅悪化を示した。

3か月先見通しは、業況で横ばい、売上・採算でわずかに改善、資金繰りでわずかに悪化の見通しを示した。

業種別にみると、業況は「飲食料」で大幅改善、「鮮魚」で横ばい、「衣服」「青果物」「機械器具」でわずかに悪化、「建築材料」で悪化を見通している。

「原発事故、地震などの被害による客数の減少で、市場の約半数を失い、先の見通しが立たない」「相双地区の営業エリア内の売上減により、業況は悪化した。原発被害の補償金が出るか出ないかで今後の経営が左右される」という声がある反面、「原発関連の資材等の需要が活発で、好調」「震災で修理(リフォーム、設備)の受注が増えて来ているが、資材の調達が思うようにいかない」という声もあった。

自由意見

卸売業

- 相双地区の営業エリア内の売上減により、業況は悪化した。原発被害の補償金が出るか出ないかで今後の経営が左右される。 【衣服】
- 原発事故以来風評被害で売上げ激減。 【衣服】
- 原発事故、地震などの被害による客数の減少で、市場の約半数を失い、先の見通しが立たない。 【衣服】
- 震災の影響が業況悪化の原因となっております。 【飲食料】
- 原発事故の動向により3ヵ月先の予想は見えてませんが、風評被害等によりかなり悪化するものと思われます。 【青果物】
- 3/11の地震、津波、原発事故による需要減少が続く、さらには相双地区のお得意先である小売店、量販店が合わせて32店も営業出来ないのと、いわき地区の被災事業所でいまだに再開出来ない所が数箇所あるため。一番苦しいのが原発事故の影響であり、一刻も早く復旧する事を願うのみです。 【青果物】
- 当社は、浜通りと北茨城を商圏にしていますが、原発事故により相双地区への販売が出来なくなり、業況は大幅に悪化しています。 【鮮魚】
- 東日本大震災の復興気運が感じられない。企業の設備投資は延期が多く、放射能汚染の模様見と先行き経済(景気)の悪化を心配しているようである。 【機械器具】
- 震災復旧に伴う仕事の関係で一時的に売上が上っただけで、本来の景気ではありません。今後昨年並みに推移すると思われる。 【機械器具】
- 地震、津波、原発事故、風評被害の影響により、お客様の購買意欲の低下が著しく、今後の見通しも予測出来ない状況である。 【機械器具】
- 震災で修理(リフォーム、設備)の受注が増えて来ているが、資材の調達が思うようにいかない。 【建築材料】
- 仮設住宅需要で現在忙しいが、これが終わるとどうなるか分からない。売上は減少するのではないかと思う。 【建築材料】
- 原発関連の資材等の需要が活発で、好調。 【建築材料】
- 先行き不安感があります。 【建築材料】
- 3ヵ月先の見通しが立たない。 【建築材料】
- 原発事故にともない、特定避難地域での売掛金の回収ができない。 【その他】
- 原発事故が収束しないと業況は悪化するばかりである。 【その他】
- 競争激化により、販売価格が低下、さらには仕入価格の上昇により収支が悪化している。 【その他】
- 原発事故による放射能の影響有り。 【その他】
- 震災による叙勲等の中止による受注品(記念品)の減少。 【その他】

<小売業>

業況DI値	
今回	-38.4
先行き	-34.9
前回比	8.6

対象企業	145
回答企業	86

業況・売上・採算・資金繰りのすべてでわずかに改善を示した。

業種別にみると「家具・建具」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてで大幅改善を示し、「自動車販売」は業況・売上・採算で改善を示したが、「家電品」は業況・売上・採算で悪化を示し、「飲食料」では業況・採算・資金繰りでわずかに悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算で横ばい、資金繰りではわずかに悪化を見通している。

業種別にみると「衣料」は業況で改善、「飲食料」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてでわずかに改善を見通し、「中小スーパー」では業況・採算・資金繰りで悪化、「家具・建具」は業況・売上・採算で大幅悪化を見通している。

「原発事故の風評被害でほとんど客が来ず、全く商売にならない」「震災後の影響により買い控え、また単価的にも安価になった。利益の減少、人件費増の現状により採算悪化」という声がある反面、「特に、大きな変化はない」「いわき市内は人口増で復興特需の模様」という声もあった。

自由意見

小売業

- 3/11の原発事故の風評被害でほとんど客が来ず、全く商売にならないです。【中小スーパー】
- 原発事故の放射能により受注減少。【中小スーパー】
- 震災後、福島原発の放射能関連で客足が大幅に下落、今後共この様な状況が続けば廃業も懸念されます。【衣料】
- 原発事故の早期終息を願う。【衣料】
- 原発事故により、業況は悪化している。【飲食料】
- 3月11日の震災以後売上が良くなっております。昨年みたいな猛暑がなければ何とか上向くと思います。【飲食料】
- 平成22年度収穫の原料製品は復興支援で売れるとは思いますが、今年の秋の作物原料品(米等)の商品は果たして需要があるのか心配。【飲食料】
- 例年と同じ業務をつづけ、売上を維持する為に、さまざまな費用が発生していて不安。【飲食料】
- 悪化の最大の原因は、納品先の工場が地震により被災し、製造停止が2ヵ月半続いたことと、風評被害とされます。【飲食料】
- 震災被害と原発事故で業況悪化。【飲食料】
- 原発事故の風評被害有り。ただ当町はプレミアム商品券の売出しをしたので、多少は売上げ減少に歯止めの効果あり。【飲食料】
- 南相馬市は人口減少傾向です。風評被害にも大変苦しんでいます。【飲食料】
- 震災の為、飲料水が売れている。【飲食料】
- 低価格品の注文が多く、大型店に対抗出来ない。【家電品】
- 震災後の影響により買い控え、また単価的にも安価になった。利益の減少、人件費増の現状により採算悪化。【自動車販売】
- メーカーの生産が未だ正常化されていない。【自動車販売】
- 現在は震災特需があり、販売額は上がっているが、キズ物処分で値引販売しているので、利益は極めて少ない。又、社屋に多額の補修費がかかるので資金繰りが大変になってくると思う。【家具・建具】
- 原発警戒区域(双葉町)のため、閉店している3事業所の売上はゼロの状態ではあるが、1事業所(相馬市)は4月より平常通り開店し、6月の売上は前年比200%と好調。【家具・建具】
- 3月11日以降、来客の減少が目立っている。【その他】
- 相馬市・新地町のR6の海側及び南相馬市～双葉にかけて、農地での作付が全く出来ない為に、肥料・農薬・資材の販売が出来ない。及び、売掛金の回収も厳しい状況である。【その他】
- 特に、大きな変化はない。【その他】
- 原発事故による放射線量の心配と風評被害の影響による来客の減少。【その他】
- いわき市内は人口増で復興特需の模様。【その他】
- 原発事故の影響で、農業部門苦戦。【その他】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-51.5
先行き	-43.9
前回比	-19.4

対象企業	104
回答企業	66

業況はわずかに悪化、売上は悪化、採算・資金繰りは横ばいを示した。

業種別にみると「タクシー」は業況・売上・採算で改善、資金繰りで大幅改善を示したが、「運送」は業況・売上・採算・資金繰りの全てで悪化、「情報サービス」は業況・売上で悪化を示した。

3か月先見通しの業況・売上はわずかに改善、採算は横ばい、資金繰りはわずかに悪化を見通している。

業種別にみると「運送」は業況・採算で大幅改善、売上・資金繰りで改善を見通し、「自動車整備」は業況・売上・資金繰りで改善を見通しているが、「観光旅館」は業況・売上・資金繰りで悪化、採算で大幅悪化を見通し、「タクシー」は業況・売上・採算でわずかに悪化、資金繰りで悪化を見通している。

「原発事故が収束しない限り、今後の商売は難しい」「被災者受入をしているので、何とか営業出来ていますが、今後退去する予定があり、先はみえません」という声や「大震災と原発事故で、予約が半年先までキャンセルされ、売上げは前年比60%減少の状態です。6月から少しずつ回復に向かっていますが、原発事故の収束が全てです」「思った程悪化がなくほっとしています」といった声があった。

自由意見

サービス業

○震災による客の減少、販売単価の低下により非常に厳しい。	【旅館・ホテル】
○原発事故が収束しない限り、今後の商売は難しい。	【旅館・ホテル】
○4月～6月の売上の大部分は、被災者・警察官の宿泊によるもので、一時的なものである。一般の観光客は売上の10～20%にすぎず、依然先行きは不安である。	【旅館・ホテル】
○被災者受入をしているので、何とか営業出来ていますが、今後退去する予定があり、先はみえません。	【旅館・ホテル】
○この夏からの本格営業に向けて、一歩ずつ歩んでおります。	【旅館・ホテル】
○大震災と原発事故で、予約が半年先までキャンセルされ、売上げは前年比60%減少の状態です。6月から少しずつ回復に向かっていますが、原発事故の収束が全てです。	【タクシー】
○震災により3月からの売上、その他、全く不透明。取引先に廃業した店が5%くらいあり、特に業務用食料店関係の受注が減少。	【運送】
○人・物・金・情報、これらの経営資源がアンバランスで、一日でも早く正常化されることを期待している。	【運送】
○思った程悪化がなくほっとしています。	【運送】
○軽油の高騰が続いているので、困っている。	【運送】
○震災以来燃料がいきなり高騰し、経費の増加につながっている。風評被害の影響がどこまであるのか。	【運送】
○原町地区は東側半分が津波で被災、南側半分が原発事故避難地域で、お客様がいない為、受注が減少しています。	【自動車整備】
○風評被害により、利用客が前年比の3割程度で原発事故がいつ収束するか見当がつかず、途方にくれています。今、必要なのは、資金の支援と客をいかに取り戻すかと言う事です。	【情報サービス】
○業況の悪化については、東日本大震災および福島第一原発事故の影響が大きい。	【情報サービス】
○震災、原発事故の影響が間接的に出てきている。	【その他】
○風評被害の影響を受けています。	【その他】